

令和3年度 第3回 学校評議員会 議事録

日時：令和4年3月17日（木）9：30～11：45

参加者

岡田 龍一 様（元阪神南地域教育推進委員 芦屋市浜町自治会長）
河合 優年 様（武庫川女子大学副学長 教育心理学博士）
木場 修司 様（県立芦屋国際中等教育学校 同窓会長）
鈴木 直子 様（県立芦屋国際中等教育学校 元PTA会長）
上田多見子 様（県立芦屋国際中等教育学校 元PTA会長）
荒井 ふみ 様（県立芦屋国際中等教育学校 PTA副会長）

1 開会あいさつ（学校長）

コロナの感染拡大から2年が経過した。収まることを願いながらも、学校行事を中止したり延期したりしている。ご心配をかけている。本校は、来年度創立20周年を迎える。10月29日に、記念行事を計画している。

今日は、本年度の総括ということで、忌憚のないご意見をいただきたい。

2 学校の様子について

(1) 6年次団より（年次主任）

3月3日の第14回卒業式では、ご臨席を賜ったり、祝詞を頂いたりありがとうございました。シンプルだったが、良い卒業式だったとの評価を頂いている。本校の卒業生は、14期生で1,000人を超えた。今年で1,007人が卒業した。80人が毎年入学し、14期までで1,120人の生徒が入学したが、卒業したのは1,007人。この数字が多いのか少ないのかはわからないが、学校に馴染めなかった生徒に対して、学校としてもっとできることがあったのではないかと、もっと見守ることができたのではないかと考える。

14期生は、全体的によく頑張る生徒たちが多く、英語力も非常に高く、現在、推薦7名、前期10名の17名が国公立大学に合格している。純粹でよくまとまっていて、学校行事にも一生懸命取り組むのは、この学校の素晴らしいところであり、伝統でもあると思う。

(2) 令和4年度入学者選考について（教頭）

2月5日、感染が拡大する中、コロナ対策を強化して入学者選考を実施した。317名の出願があり、291名が受験した。80名の合格者のうち、外国籍の生徒は中国、フィリピンなど11か国であった。

(3) 10月～2月の芦国より（教頭）

学校での活動について報告。

3 学校評価について（教頭）

概要の説明

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響とその対策により、様々な制限がある中での学校運営となった。その結果、評価が下がっている項目も見られる。

1 重点項目 領域1 「授業力の向上と学習指導の充実」について

「各授業時間の目標を明確に示すなど、創意工夫した授業の実践に努める」については、前年度より 0.2 ポイント下がっている。コロナ対応に時間を割かれ、新しいアイデア等を見つける努力をする時間的余裕がとれないという声が聞かれた。「教師からの一方通行の授業ではなく、生徒の活動を重視した授業を採り入れる」では、昨年度からの経験が生かされ、コロナ禍におけるペアワークやグループワーク、実技、実験等授業形態に工夫が見られ、0.4 ポイント上昇した。コロナウイルス感染症対策のため、公開授業の実施が難しかったが、本年度は2回の「チャレンジウィーク」を設定し、外国語の先生が入らず、授業者がやさしい日本語を用いて授業を行うという取組を始めた。このチャレンジウィークでは、教科の枠を超えて授業の見学を行い意見交換を行ったことは、たいへん有意義であった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症による学年閉鎖を5回経験した。その際、また新型コロナウイルス感染症関係の出席停止生徒に対して、Classi, Zoom, 本校の youtube チャンネルなどを活用し、学習機会の確保に努めた。来年度以降もさらにこの取組を進めていく必要がある。

2 重点項目 領域2 「情報発信とコミュニケーションの充実」

今年度は、緊急事態宣言下に制限を設けながら文化祭、体育大会を実施することができた。来校できなかった保護者に対しては、Classi でその様子を配信した。全体的な評価が前年を下回っているのは、授業参観や保護者懇親会を実施できず、生徒の活動を保護者に見てもらう機会が減り、保護者が学校に来る機会が減ったことで、保護者と直接会ってコミュニケーションをとることができなかったことが原因として考えられる。来年度以降は、Classi や Zoom 等を用い、双方向でのコミュニケーションの機会をできるだけ確保したい。ホームページ等も含めて、さらに積極的に情報発信に努めたい。

3 「専門部の業務評価」について

総務部の評価が全体的に下がっているのも、新型コロナウイルス感染症の影響と考えている。感染の拡大で、直前に内容変更をしなければならない場面が多くあった。しかし、コロナ禍においても、各行事を実施できたことは、数字には現れないが前年以上の成果だと考えている。来年度以降は、with コロナ、after コロナを見据えた学校行事の運営に取り組みたい。

学習支援部、生活支援部、学年・年次については、例年と同じかそれ以上の成果があった。

4 「生徒・保護者アンケート」について

1～5年の生徒アンケートで「授業に熱心に取り組んでいる」生徒が、90%を超えているのに対して、「家庭学習の習慣が身についている」生徒は7割に満たない。家庭での学習が習慣化できるような取組について模索していく必要がある。

部活動に取り組んでいる生徒が73.3%、熱心に取り組んでいると思わない生徒が一定数いる。部活動のあり方についても一考する必要がある。

文化祭、体育大会、校外学習については、ほとんどの生徒が積極的に取り組むことができている。

6年次生は、生徒、保護者とも「芦屋国際中等教育学校で学ぶことができてよかった」と100%の回答があった。ただ、記述回答については、6年次生に限らずいただいた意見を真摯に受け止めて取り組んでいきたい。

4 意見交換

- (評議員) 昨夜、東北地方で大きな地震があった。学校での防災教育はどのように進めているのか。本校の立地を把握しておく必要がある。生徒にもぜひ知っておいてほしい。平和教育、命の大切さについても、生徒に何をどのように伝えるのかを考える必要がある。
- (評議員) 学校評価シート「本年度の重点項目」、2「情報発信とコミュニケーション」の評価が「C」であることが気になる。教員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーションについて、また、「専門部の業務評価」、(1)「総務部」、「防災」の評価についても対策を考えるべきである。中等教育学校の強みとして、中3での受験で学習が途切れることがなく考える力をつけられる反面、緊張感がなく中だるみの時期となってしまうがち。3、4年の時期は生徒の気持ちも揺らぎがちとなる。今後工夫が必要だ。生徒のアンケート結果で、全体的な経年変化だけでなく、生徒個人の変化が気になる。1、2年の時と比べてどのように変化したのかということについても知りたい。6年次生が卒業に際し、「芦屋国際中等教育学校で学ぶことができてよかった。」と答えられることが本校の強みである。進路については、結果としては良い結果だが、進路結果が目的ではない。卒業後のネットワークがどう広がっていくのか、一人一人の追跡調査も大切。
- (評議員) こども多文化共生センターと連携し、交流活動の推進を図ってはどうか。40人の学級では、個にきめ細やかな対応は難しいのではないかと。生徒アンケートの質問事項の順序、記名式のアンケートの方法について一考するべきではないか。業務別評価の同窓会に関する評価が改善したことは有難い。国・地域別集会、多文化共生に関する研修の取組を進めていってほしい。設置目的に照らして、今何ができるのかを考えていく必要がある。外部とどうつながっていくのかも課題である。4月から成人年齢が引き下げられるが、学校としてどのように対応していくのか。
- (評議員) 見学した1年生の「アフリカ講演会」はおもしろかった。6年次生の生徒、保護者のアンケート結果の「芦屋国際中等教育学校で学ぶことができてよかった」が100%の結果を得たということは、この学校の素晴らしいところで、外部にもっと発信していくべきだ。アンケート結果で、「学校生活全般を楽しく過ごしていた」のに、「授業について満足していない」生徒が一定数いるというギャップは今後解消していくべき。また、保護者アンケート結果の3年生で、「子どもを芦屋国際中等教育学校で学ばせてよかった」の設問に対し、「あまり思わない、思わない」と回答した7.9%は気になる。芦屋市の国際交流協会と交流してみてもどうか。1枠の受験者数を考えると選抜方法の見直しを考えるべき。
- (評議員) 1枠での受験者数がどんどん減っている。いろいろな国籍の生徒がいることが、多文化共生を謳う学校にふさわしいと思う。今年卒業した14期生は素晴らしい学年だった。努力するという力も持っていた。学校、先生が、コロナ禍の中尽力していることがわかっていたので、学校評議員として、保護者やPTAに対してできることがなかったかを考えている。生徒は、自分たちの夢の実現に向けて、先生方からいろいろなことを教えてもらっている。これからも、学校の応援団として学校を応援していきたい。
- (評議員) 学校の独自の強みをもっと発信していくべき。そのことが、中だるみを解消していく手立てにもなるのではないかと。また、難しい状況の時こそ情報発信をするべき。コロナ禍での学校行事が難しいことを生徒たちは理解しているが、保護者にはそのことが十分に伝わっていないので、保護者はストレスを感じている。積極的に情報発信してほしい。PTAのガールーンをもっと使ってもらったらいと思う。classiよりガールーンを利用している保護者のほうが多い。保護者は、学校の様子についてもっと知りたいと思っている。懇親会や保護者会の開催が難しい状況なので、学校での活動を保護者にもっとアピールしてみてもいい。

5 閉会あいさつ（学校長）

本校のカウンセラーから、「毎年2、3年生のカウンセリングが多いが、生徒たちはそれを乗り越えて6年間頑張っている。」という言葉をいただいた。いろいろな国から、様々な文化を持つ生徒が集まっていれば当然のことと思う。アンケート結果以外にも、課題が多くある。今日、ご意見をいただいたことで気づかされることも多くあった。ありがとうございました。これからも、時代に応じた動き方を心掛けたい。